

ぼくの家の近くの世田谷代田駅は、工事によって行く度にイロイロが変化しています。いつ行ってもずっと続くこの工事はいつから始まったのか。工事はこれからどうなっていくのか。ふと疑問に思い、幼い頃からお父さんと撮ってきた写真を見返していたら、様々なことが分かってきたので、まとめてみました。

世田谷代田駅 いろいろ

開業年月→1927年4月1日
1日平均乗降人員→8150人

小田急線世田谷代田駅
ぼくが見てきた
八年間の
変化

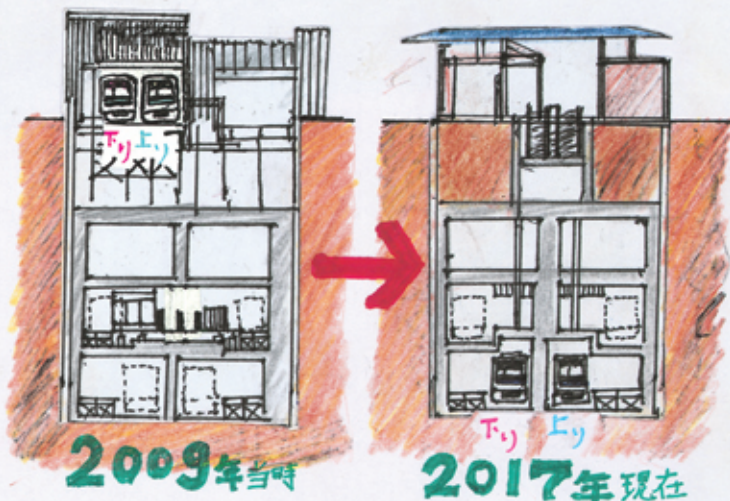
構内レイアウトの変化 まるで「手品」のような工事

世田谷代田駅の工事は、とても巧みで、まるで「手品」のような方法で進んでいます。今回、この工事の注目すべきポイントを、2つに分けて紹介します。

1つ目は、在来線が地下へ移ったら、それまでの2線から4線へ、線路が増えることです。これは複々線化といって、線路の数を増やして、停車駅の少ない特急や急行と、全ての駅に停車する各駅停車が走る線路を分けて、ラッシュ時のノロ運転をなくし、全体のスピードアップをはかるという工事です。また、駅付近は、横に4線並ぶ普通の複々線とは違い、上下2層構造になるという特徴があります。

複々線は2018年3月に完成する予定で、地下の一部の場所からは工事中のトンネルが見えて、とても興味深いです。

2つ目は、駅を他の場所に移したり、新しくつ



2009年当時

2017年現在

くったりせず、現在の場所だけで工事を進めていることです。これまで世田谷代田駅は、ホームの位置が急に変わったリ、駅が急に地下になったリしました。その後も目撃することになったり、通路が変わったり、またある時は、工事中でフェンスに隠れていた新駅舎が、数ヶ月後にフェンスが外されると、突然に立派な空間が広がったリ。世田谷代田駅は今もなお、毎日進化し続けています。この様に、駅では沢山の努力と工夫で、日々工事は進められています。

発行日

2017年9月24日

発行者

代沢小6年
石川 拓東

世田谷代田駅とその周辺 8年越しの定点観測

人道橋から世田谷代田駅方向



かつてあった地上設備は全て撤去され、旧駅舎のあとにつくられた仮駅舎も、あとがたもなくなりました。奥は新駅舎となり、手前側の白線がひかれた部分は、今後道路として整備される予定です。ちなみに、この写真を撮った人道橋は、長年線路をまたぎ、地域の人を支えてきましたが、地下化と共に使命を終え撤去が進んでいます。

人道橋から下北沢駅方向



線路あとは整地され、手前には地下との換気塔ができて、奥は更地です。今は線路の形に沿った場所がありますが、今後道路や住居などが整備されていく予定です。

線路上にあった
「ナゾの巨大建築物」の
正体とは？



地下化前、工事の数年前は、線路上に「ナゾの巨大建築物」がありました。これは、地下トンネルの材料を集めていた場所だそうなんです。在来線地下化後にはなくなりました。

元世田谷代田1号踏切から世田谷代田駅方向



かつてホームがあった場所は新駅舎に。線路はアスファルトにほそがされ、その一部は仮の西口になっています。今後この場所は、駅前広場として整備される予定です。

編集後記

ぼくは、これまで工事を見ながら何気なく世田谷代田駅を使っていたんですが、いざ新聞にまとめると、利用者の足や列車の運行を止めずに利用者の目の前で工事をすすめるという、とてもすごい変革工事であるということに改めておどろきました。

世田谷代田駅は他のターミナル駅と比べると規模の小さい駅ですが、この様に様々な最新技術を導入し、これから進化し続けていくんだということをもっと伝えていきたい、と思いました。